薬 草 栽 培 だ よ り

No. 106　令和5年9月25日

富山県薬事総合研究開発センター
薬用植物指導センター
〒930-0412 中新川郡上市町広野 2732
電　話　０７６－４７２－０８０１
ＦＡＸ　０７６－４７２－０３５３
薬用作物生産技術確立プロジェクトチーム

１．気象経過と季節予報

月平均気温は、平年に比べ７月は27.7℃（平年比＋2.2℃）、８月は30.6℃（平年比＋3.7℃）とかなり高くなりました。月降水量は、平年に比べ７月は362.5㎜（平年比148%）と多くなりました。一方、８月は36.5㎜（平年比18%）とかなり少なくなりました。向こう１か月の季節予報では気温は平年に比べ高く、降水量は平年並と見込まれます。

今後は、降雨後の停滞水を速やかに排水するため、排水溝・水吐尻の点検・整備をしましょう。

２．シャクヤクの栽培管理

（１）１～３年生株

ア　茎葉の処分及び追肥

枯れ上がった茎葉には、斑葉病等の病害の胞子が付着し、来年の発生原因となることから、できるだけ地際から刈り払い、ほ場外に処分してください。

その後、10月に以下のとおり追肥してください。

（10ａ当たり）

１年生株（植付の翌年）	発酵鶏糞	１５０kg
２～３年生株	発酵鶏糞	３００kg
	燐加安15号	４０kg

ビニールマルチ栽培の場合、発酵鶏糞は鎌等で穴を開け植株の中間に、化成肥料は株元に施用してください。

（２）４年生株

ア　掘り取り（収穫）の目安

薬用品種「梵天」は、栽培年数４年を経た株を掘り取り、根を出荷しましょう。１株当たりの茎数が20本、生根重量が1.5kg位を目標とします。ただし、生育量が不足している場合は翌年回しでも構いません。ただし、５年を超えて長期間栽培すると根にすが入り、薬用としては品質が低下しますのでご留意ください。

イ　掘り取り及び出荷調製

９月中旬～10月中旬頃、タガネ等で株を２～４個に分割し、スコップや鍬等で根ごと掘り起こします。芽の付いた株からゴボウ根を外し、袋（当センターが準備するガラ袋など）に入れます。根が乾かないように、日陰の涼しい所でビニールシートを被せるなどして出荷まで保管します。出荷期間は10月中旬～11月中旬で、準備が整った生産者の方は、一時保管場所である当センターまでご連絡ください。

初めて掘り取る予定の方は、掘り取り調製方法について、別途ご案内する研修会（本だより末尾参照）でご説明します。研修会にお申込みのうえご参加ください。

（３）新植

ア　ほ場の準備

事前の排水対策を実施した上で、基肥（10ａ当たり）に発酵鶏糞300kg、苦土石灰100kg、過燐酸石灰60kgを全面に施用し、よく耕耘します。1条植えでのうねサイズの目安は、うね幅：140㎝、うね裾幅：80㎝、うね高：20㎝です。うね立ては収穫作業の前に完了させましょう。

面積が1ａより大きい場合は、雑草対策のため黒マルチ（厚さ0.03㎜）の被覆を推奨します。

イ　苗の調製

出荷調製後の芽の付いた株から、植付け用の苗を調製します。一苗当たりに３～５つの芽が付くように、頭根部を分割します（写真）。

苗にはゴボウ根を付けず、新しく出た根を収穫出来るようにします。

苗には、根黒斑病や根こぶ症状など病害虫の無い生育が良好な親株を用います。なお、生育の悪い株からは苗を採取せず、廃棄しましょう。

薬用品種「梵天」の苗

ウ　苗の定植

定植が遅れると新根の発生が不足し、翌年の生育が不良となることから定植は地温の高い 10 月下旬までが望ましく、やむを得ず遅れる場合でも 11 月中のできるだけ早い時期に行ってください。

マルチに植え穴（株間：40～50cm）を開け、芽を上にして苗を植え付けます。覆土は３～５cm とします。風によりマルチの穴がずれないよう、植え穴に土を被せてマルチを押さえます。

３．トウキの栽培管理

（１）抽苔開花株の抜き取り

花が咲いた株は、根が痩せ細り、薬用にはなりません。抜き取ってほ場外で処分してください。

（２）追肥（10 a 当たり）

ダニによって葉が全部枯れた株でも根が残っていれば、葉が再生してきますので、あきらめないでください。９月下旬頃硫安を 20kg、又は尿素を 10kg 追肥し葉の生育を促します。また、2 回目の追肥を施用していない方は、まず化成肥料（N:P:K=15:15:15）を 20 kg 施用してください。

（３）掘り取り調製法

①掘り取りは、11 月に入って、葉の先端部が少し黄色味を帯びた頃に行います。長く置けば根が充実しますが、富山では冬のしぐれがあり、作業がやりにくくなるので、ほ場の面積、作業量を判断して、11 月下旬までに掘り終えるようにしてください。

②葉を付けたまま株を掘り起こし、根の土を払い落とした後、３～４株ずつ束ね、風通しの良い所（雨が直接かからない軒先等）でハサ掛け（稲架掛け）のように干し、自然乾燥します。

③特に、根を積み重ねると数時間で堆積発酵し、中心部分が腐る原因になります。一旦腐りが入ると、どんどん拡がり、最後にはほとんど切り捨てなければならなくなります。切る手間もかかる上、大変な損失になります。このことから、ハサ掛けまで一晩置く場合は、地面に直接ひと並べに広げて置きましょう。

④ハサ掛け後は翌年の２～３月頃まで、そのまま自然乾燥しますが、途中、土が半乾きになった頃に、はたいて土を落とし、乾燥しやすいようにします。

⑤この後、生薬に仕上げるには「湯通し」の作業が必要です。設備がないために作業ができない場合は、この作業を行う前の状態（一次乾燥根）でも出荷できますが、可能であれば「湯通し」を行い、増収を目指しましょう。初めて「湯通し」をされる方は、当センターへお問い合せ下さい。

４．種苗の販売について

当センターでは、薬用植物の栽培普及のために、本県で出荷可能な品目の種苗を生産・供給しています。希望される方は当センターまでご相談ください。

５．薬用植物指導センターからお知らせ

（１）シャクヤクの収穫調製研修会

日時　令和５年 10 月 11 日（水）10:00～
場所　農事組合法人徳成営農シャクヤク栽培ほ場（南砺市徳成 627）
申込　富山県農林水産部農産食品課
電話：076-444-3284
FAX　：076-444-4410

（２）薬用植物講演会

日時　令和５年 11 月 30 日（木）
10:00～12:00
場所　富山県民会館 706 号室
（富山市新総曲輪 4-18）
演題　「薬用作物栽培の現状と取り組み」
講師　和漢生薬　福田商店
代表　福田　浩三　先生
申込　薬用植物指導センター
電話：076-472-0801
FAX　：076-472-0353